

自転車通学安全モデル校(再指定校)アンケート

本アンケートに関するの概要は、次のとおりです。

- 自転車通学については、すべての学校が許可制又は届出制としています。また、自転車の点検整備、自転車の保険加入や自転車免許制度などを定めてるところもあります。
- 交通安全教育・安全指導については、すべての学校が交通安全教室と交通安全指導を実施しています。そのほかに地元自治体やPTA等と連携し、通学路における交通安全指導を行っているところもあります。
- 点検整備については、すべての学校が行っています。学校独自の点検整備をしている学校が5校、自転車店と連携して点検整備をしている学校が5校あり、両方行っているところもあります。
- 自転車向け保険の加入については、すべての学校が保護者等に対する説明会や文書の配布などを行い、加入の勧奨をしています。また、中には自転車向け保険の加入を自転車通学の条件にしているところもあります。
- 自転車通学安全モデル校に指定された3年間を振り返っての感想としては、
 - ・交通安全意識が高まった
 - ・交通安全に対する取組みが増えた
 - ・学校のイメージが向上した等がありました。

今回アンケートにご協力いただき、その結果をまとめた本資料が、多くの学校の自転車安全利用の活動において参考となれば、幸甚です。

なお、今回のアンケートにご協力いただいた8校を、平成28年11月1日に、再指定をさせていただきます。

アンケート結果の詳細については、以下をご覧ください。

自転車通学安全モデル校再指定校に関するアンケートをした結果は、以下のとおりです。

【調査した時期】 平成28年8月～10月

【作成日】 平成29年2月

【対象校】 8校
(平成25年11月1日指定、平成28年11月1日再指定)

- 大学～1校 ■筑波大学
 高等学校～3校 ■東北生活文化大学高等学校 ■宮城県一迫商業高等学校 ■学校法人外語学園松本第一高等学校
 中学校～4校 ■気仙沼市立鹿折中学校 ■仙台市立高砂中学校 ■いわき市立植田中学校
 ■岩倉市立岩倉中学校

《～自転車通学安全モデル校としての取組み状況～》

※複数回答

		学校数	
	全校生	1000人以上	2
		1000人未満	3
		500人未満	3
	自転車通学者	500人以上	1
		500人未満	5
		100人未満	2
	全校生のうち自転車通学者の割合	5割以上	2
		5割以下	4
		3割以下	2
指導責任者	生徒指導部長・交通安全担当教諭等	7	
	特に定めていない	1	
活動組織	生徒会・委員会	4	
	学級単位代表者	1	
	学部学科単位	1	
	特に定めていない	2	
組織・体制 部外との連携・協力体制(※)	地元自治体(市・区)	4	
	教育委員会	1	
	地元警察署	8	
	地元交通安全協会	2	
	自転車安全整備店	2	
	PTA	1	
自転車通学の手続き・更新(※)	許可制・届出制(登録制含む)	8	
	毎年更新している	4	

		学校数		
	自転車通学の 規約・基準	規約文書がある	3	
		基準的なものはあるが、文書には定めていない	5	
	自転車通学の条件 (※)	申請書(届出書)の提出	7	
		保険加入	2	
		点検整備	5	
		自転車免許	2	
		通学区域の指定	3	
		距離の制限	1	
		ヘルメットの着用	4	
	自転車ステッカー (※)	貼付	8(内1件ICタグ)	
年度ごと貼り替え更新している		1		
年間行事・計画	ある	8		
交通安全教育・指導	交通安全教育	交通安全教室の開催	8	
	交通安全指導(※)	教職員や生徒による交通安全指導	8	
		地元警察署、交通安全協会、市役所等と連携した交通安全指導	3	
	その他の活動(※)	地域の交通安全キャンペーンに参加	1	
		通学危険箇所マップの作成・配布	3	
		登下校時の交通マナーアップ運動	3	
		交通ルールパンフレットの配布	1	
		傘差し運転減少のためのレインウェアの推奨	1	
	点検整備	点検整備(※)	学校独自の点検・整備	5
			自転車店との連携による点検・整備	5
事故賠償	自転車向け保険(TSマークを含む)加入促進の取組み(※)	説明会の実施	7	
		文書の配布	3	
	自転車向け保険(TSマークを含む)加入状況	ほぼ全員加入	5(内4校全員)	
		半数以上が加入	3	
	TSマークの利用	ある	7	
その他	当協会のモデル校以外のモデル校等指定		3	

《～自転車通学安全モデル校に指定された3年間を振り返って～》

		学校数
自転車通学について、特に力を入れている活動(※)	交通ルールの遵守やマナーアップ活動	4
	通学路の点検	1
	自転車免許制による安全利用の意識付け	2
	整備不良(改造)自転車防止のための指導	1
	自転車の点検整備	1
	駐輪場の整備	1
	放置自転車通報に対する早期対応	1
自転車通学について、他校に紹介したい施策	自転車運転免許制度	2
	生徒による自転車委員会	1
	地元自治体、地元警察署との合同街頭指導	1
	自転車のICタグによる登録・管理	1
自転車通学安全モデル校に指定されて、よかった点(※)	生徒や教職員の交通安全意識の向上	5
	学校のイメージの向上	1
	回答なし	3
自転車通学安全モデル校として活動を行っていく上で、ご苦労されたこと	生徒会・委員会活動のマンネリ化	1
	保険加入に関連する事務量の増加	1
	登下校指導の時間確保	1
	道路交通法改正に伴う早期の指導・対応	1
	多数の学生に対する交通安全マナーの周知徹底	1
	回答なし	3
自転車通学安全モデル校として活動を行っていく上で、知りたい情報	自転車レーン通行時における駐車車両がある場合の安全な通行方法	1
自転車通学安全モデル校として活動を行っていく上での希望	他のモデル校の自転車安全に対する取組みと成果の共有	2
校内の組織や推進体制などの変化(※)	交通安全に関する体制が強化した	2
	交通安全に関する取組みが増えた	3
	生徒会の交通安全指導回数が増えた	1
	徒歩通学生も含めた交通安全指導が増えた	1
	担当職員が、県の自転車安全教育指導員の資格を取得した	1
	特に変化はなかった	4

		学校数	
交通安全に関する意識や行動などの変化(※)	生徒の交通安全に対する意識が高くなった		5
	交通安全に関する活動が更に活発になった		2
	交通マナーが向上した		4
	自転車通学生徒が多い中、地区内の事故発生件数、放置自転車撤去数が最小校となった		1
	保険加入率が増えた		1
	夜間の無灯火が減少する等、少しずつ安全意識が高まった		1
	特に変化なかった		1
学外の団体との協力関係の進展(※)	地元自治体		2
	教育委員会		1
	地元警察署		6
	自転車安全整備店		1
	交通安全協会		2
	その他の団体		1
	特に進展はなかった		2
交通安全指導、安全教育に関する取組みの変化(※)	街頭での安全指導の実施	実施回数が増えた	1
		実施者が増えた	2
		実施箇所を拡大した	2
		特に変化はなかった	4
自転車の安全整備・点検に関する取組みの変化	整備不良自転車の減少		1
	特に変化はなかった		7
自転車向け保険(TSマークを含む)に関する変化(※)	保護者からの問合せが増えた		1
	自転車向け保険(TSマークを含む)の加入率の変化	加入率が増えた	2
		特に変化はなかった	6

		学校数
地域との連携に関する変化(※)	モデル校に指定された事に関して地域からの反響があった	1
	地域住民と連携した交通安全の呼びかけ等の活動が増えた	2
	地域のボランティア活動に参加するようになった	1
	特に変化はなかった	5
指定校としての活動に対する取材や報道の状況(※)	地元新聞	2
	地元交通専門誌	1
	交通教育専門誌	1
	取材等なし	6

【こちらのアンケートに関するお問い合わせ先】

公益財団法人日本交通管理技術協会

業務部業務課

山口 晃弘

松田 朋子

電話番号03-3260-3621